

建設水道常任委員会記録

令和2年7月17日(金)午後1時29分～午後1時52分(9階 909 会議室)

○出席委員(8名)

委員長	梅津 一匡
副委員長	根本 雅昭
委員	丹治 誠
委員	石原 洋三郎
委員	小熊 省三
委員	黒沢 仁
委員	渡辺 敏彦
委員	真田 広志

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査「道路の効率的な維持管理・安全対策に関する調査」

- 1 委員長報告について
- 2 その他

午後1時29分 開 議

(梅津一匡委員長) ただいまから建設水道常任委員会を開きます。

委員長報告についてを議題といたします。

前回の委員会では、調査のまとめとして、これまでの意見開陳の内容を正副委員長手元で項目ごとに整理し、その内容について協議をさせていただきました。本日は、その内容を正副委員長手元で再度整理した上で、骨子の正副委員長案をお示しし、こちらをたたき台として文言の追加や内容の修正に関する協議をしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

では、お手元に配付の骨子案についてご説明いたします。まず、1点目としては調査の概要についてでございます。調査目的は、10月23日に決定した内容に基づきまして記載をさせていただいております。

続いて、(2)としては調査の経過。経過というのは、前回お示しいたしました調査スケジュールに基づく調査の見込み回数と、これまで実施してまいりました調査手法について記載しております。

続いて、次のページでございますが、本市の現状についてでございます。こちらは1月8日に実施

いたしました当局説明の内容から、1点目として道路維持管理の現状と課題、2点目として今後の取組について記載してございます。

次のページでございますが、参考人から聴取した内容についてでございます。こちらは、1月22日に実施いたしました参考人招致の内容から、国の維持管理の現状として記載をしてございます。

そして、その下段でございますが、先進地視察での調査内容についてというものは、視察先での取組の特徴を記載の3点の視点で記載をしてございます。ICTによる道路の維持管理の効率化の取組、市民の理解を得るための見える化による維持補修の取組、そして道路に関する市民意識を高めるための取組ということで記載をさせていただいてございます。

次の4ページでございますが、ここから提言に入っておりますが、提言事項については、これまでの意見開陳や前回の調査のまとめの際に委員の皆様から出された意見を盛り込んで、次の4点に整理をさせていただきました。

まず、1点目でございますが、維持管理対策における優先順位の設定についてでございます。こちら読み上げさせていただきますと、提言としては、限られた道路予算の中で市民の理解を得ながら道路に対する要望に的確に対応していくためには、市民への明確な説明が可能となるよう、修繕の優先順位を点数化するなど、補修、修繕の効率的な実施に向けた優先順位の考え方について検討すべき。

そして、提言の背景といたしましては、先進地視察での調査内容より、まず柏市の取組として、柏市では修繕の優先順位について、舗装の劣化度に加え、通学路や緊急輸送道路などといった路線の特徴や住民要望の有無などを指標とし、各指標に評価点を設定して、合計点数が高い順に決定をしている。点数化による優先順位の決定は、市民の道路予算執行への理解を得るために有効な手法であった。そして、当局説明、福島市道路施設個別計画の内容から引用いたしまして、本市の現状、委員会の意見としては、本市においては福島市道路施設個別計画に基づき、過去の路面性状調査の結果から道路維持管理指標であるMCI値を路線ごとに設定し、修繕の優先順位を定めている。優先順位の設定には、MCI値以外にも通学路等といった道路の特性や路線の役割、市民からの要望などの指標も加味していくことにより、公平性を担保していくことが重要であると、このような意見開陳の中から出されたものを背景として載せていきたいと思っております。

続いて、次のページでございますが、ICTによる道路の維持管理手法の効率化についてということが2点目でございます。提言といたしましては、1点目、先ほどの(1)を受けての流れといたしまして記載ができますが、道路維持管理業務におけるICTの導入について、先駆的事例を研究し、費用対効果も考慮しながら本市に必要な手法の導入について検討すべき。

2点目として、今年度から導入が予定されている市民通報システムにより、市民から多くの要望が寄せられた場合も考慮し、要望箇所や修繕履歴等の情報管理については、従来の紙ベースを改め、データベースを構築し、GISにマッピングするなど、デジタル化を進めることでより効率化を進めるべきということでございます。

提言の背景といたしましては、当局説明の内容から、本市の現状を踏まえた委員会の意見として出されたものとして、人口減少による社会情勢の変化や職員の減員という課題を抱える本市の道路の維持管理体制において、激甚化する災害対応への視点や通学路等の安全対策を含め、広範な市道を効率的に管理していくためには、今まで以上にICTの活用を進める必要があるという意見が出されておりました。

また、先進地視察等の調査内容から出された意見等々につきましては、柏市、町田市、浜松市の取組として、柏市では道路パトロール車にスマートフォンを搭載し、路面の劣化状況のデータを取得し、把握する取組を導入しており、道路状況の見える化による補修優先度の決定や市民への説明に活用していたと、こちらは見える化という点でございます。そして、町田市、浜松市ではスマートフォンアプリケーションによる市民からの通報システムを運用しており、多くの情報を収集するツールとして成果を上げていたと。特に町田市においては、災害時の情報共有ツールとして、市内の災害状況の把握に活用しており、さらに通報システムへの通報と電話での通報内容を道路GIS上で情報共有し、対応状況の把握と継承をしており、3市ともICTを積極的に活用し、効率化に努めていたということが背景として挙げられます。

続いて、3つ目の提言でございます。3点目の提言としては、今後も国や県と連携しながら職員を積極的に研修の場に送り出し、また庁内での技術の継承に努めるなど、人材育成の取組に注力すべきということでございます。

前回の意見開陳の中等々でも出されておりましたが、道路の維持管理業務において長寿命化を徹底していくためには、専門的技術を有した人材の育成とその技術の継承が肝要であるということと、また参考人招致の中から出されたものとしては、国における自治体職員を対象とした取組としては、講習会や研修会の開催と技術支援が行われていたということが明らかとなってございますが、このようなことでまず3点目としては将来を担う人材育成として提言をしたいと思っております。

次に、最後でございます。7ページでございますが、4点目の提言としては道路に関する市民意識の醸成についてということで、提言といたしましては、LINEによる市民通報システムの構築、運用にあたっては、システムが有効に活用されるよう、市民への周知を工夫することはもとより、市民の道路への興味、関心をいかに醸成するかということも重要であるため、市民が道路へ興味、関心を抱くきっかけとなる取組を調査研究し、実行すべきということを提言してまいりたいと思っております。

提言の背景としては、町田市さんの取組で、年々増加する道路要望への解消策として、市民に対して道路愛護運動を展開し、道路への関心を高める取組を進めておりました。市民通報システムでは、道路の不具合のみならず、発見した生き物に関するレポートや公園施設に関する内容など、複数の分野にわたる通報の機能を持たせることで、子供などの若い世代が興味を持つための工夫をしており、様々な世代に通報アプリを活用してもらうための仕掛けづくりを行っていたということが分かりまし

た。

また、浜松市の取組といたしましては、民間資金を活用した道路施設の持続可能な維持管理の取組として歩道橋のネーミングライツを導入しておりまして、道路施設に対する愛着の醸成にもつながっていたということが背景として挙げられると思います。

提言は以上でございまして、続いて謝辞、調査にご協力いただいた方への謝辞と、そして終わりにというところで、こちらも前回の意見開陳の中で出された内容も踏まえまして、昨年発生した令和元年東日本台風、本年7月の九州豪雨、これは正式名称として変えますが、昨今の気象変動に伴う大規模自然災害に対してインフラにおける被害を最小化し、迅速な復旧を可能とするために国土強靱化に基づいた強い道路環境を整備していくことが重要ではないかというような結びとしていきたいと思っております。

それでは、概要は以上でございますが、これからこの骨子案、今ほど大分私がかもう読み上げてしまいましたが、骨子案について黙読の時間を5分程度取りたいと思っておりますので、内容についてご確認いただきたいと思っております。

それでは、皆さん、お願いいたします。

【資料黙読】

(梅津一匡委員長) この内容について何かご意見ございますか。

(石原洋三郎委員) 5ページのICTによる道路の維持管理手法の効率化についてということなのですが、市民から多くの要望が寄せられた場合も考慮しということで、データベース化を図っていったほうが良いということなのですが、自治振要望との兼ね合いというのもある程度考えていったほうが良いのかなと思ひまして、例えばグレーチングが壊れているとか、側溝の蓋が壊れているとか、道路に穴が空いているということであれば、これは自治振要望関係ないと思うのですが、例えば市民の方からは設置の要望も併せて通報システムでできてしまう方いるのではないかなど。例えばカーブミラー設置してほしいとか、ガードレール設置してほしいとか、蓋かけしてほしいといったときに、それは自治振の要望では多分上がってこないのではないかなと思うのですが、そういった自治振要望との兼ね合いも鑑みながらということでは必要なのかなと思ったのですが。

(梅津一匡委員長) 今ほどの意見についてですけれども、もっともなところではあるのですが、一番最初の第1点目の維持管理対策における優先順位の設定というところ、そこもここ兼ね合いが出てくると思うのですが。

(石原洋三郎委員) なるほど、4ページですね。

(梅津一匡委員長) 点数化、数値化するということと、あとそれらに対する対応についての説明ができるようにということと関連してずらっと1、2、3、4と流れるようにいけるのですが、そういったところで確かに新設についての要望というのが果たして通報システムとしてそぐうものなのかどうなのかということ、現在進めている当局のほうでどのように捉えているかということ

もあると思うので、そこなのですよ。

(石原洋三郎委員) 基本的には多分維持修繕、修繕だけというふうに捉えれば、新設要望というのはそぐわないと思うのですけれども、ただ市民の方になかなかそこまで果たして伝わるかどうかという、ここに市民への明確な説明が可能となるように書いてあるので、それで含まれているといえそうかなとも思うのですけれども、そういうのは自治振要望に出してくださいよということになるのかなとは思いますが。

(梅津一匡委員長) 今の段階でも導入はもう予定されているというところなので、そういうところはやっぱり今後の委員会の中とかで新設の要望とか来たらどうするのというようなことで、ちょっと対策、いろいろ皆さんと協議できればいいのではないのかななんて思って、あくまでも現段階での導入前、導入はするというのも決定している段階での提言ということですので、まずこのくらいでご了承いただければいいのかななんて思うのですけれども。おっしゃることはもっともなので、どうするのというところは心配事ですから、市民をないがしろにするなよというのは当然前回の意見開陳でも出ていたところですし、それは大事な市民要望の場でもありますので、尊重していかなければいけないと思います。

(石原洋三郎委員) あくまで修繕ということでの要望受付ということだとは思いますが。

(梅津一匡委員長) 捉え方としては、今のところそのように捉えております。

(黒沢 仁委員) 1 ページ、調査の概要というようなところで、これ表現の問題なのだと思いますけれども、社会状況を訴えているというような中で、人口減少、税収減少の時代においてという表現、これ何かもうちょっとうまい表現あればいいかななんていう思いがあったものだから、確かに今の社会状況を言っているのだけれども、言葉の表現として何かうまい表現ないかななんて。

(梅津一匡委員長) 少子高齢の時代においてでもいいのかな。高齢化とは言わないと思うので、少子高齢になってしまっているから、少子高齢の時代においてとか、ちょっとここはそれでは文言考えてみたいと思いますので、宿題とさせていただきます。

(黒沢 仁委員) はい。このとおりなのだ。文言どおりなのだけれども。

(真田広志委員) 人口の減少に伴い税収の減少が見込まれる中とか、そういう感じで。時代というのはちょっとおかしいかもしれない。

(黒沢 仁委員) 社会の状況を説明するような言葉のほうがいいのではないかなと。

(梅津一匡委員長) 今真田委員がおっしゃったように人口の減少の時代で。

(真田広志委員) 例えばだけれども、人口減少により税収の減少が見込まれる中とか、そういうような感じにちょっと表現、時代を抜かせばいいと思う。

(梅津一匡委員長) 時代を抜く感じでね。では、そのようにちょっと検討させていただいて、次回お示しさせていただければ。

(真田広志委員) ちょっとあと肉つけければ。

(梅津一匡委員長) この骨子案にある程度肉づけしていけば仕上がると思いますので。

ほか気づいた点ございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) それでは、修正といたしましては、今ほどの1ページのところの調査の概要のところについてというところ、ちょっとそちらを修正ということとさせていただきたいと思いますので、次回への宿題とさせていただきます。

本日開陳された意見を正副委員長手元で改めて整理させていただいた上で委員長報告案のたたき台を作成させていただき、次回の委員会において具体的な協議をいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、そのようにさせていただきます。

次に、その他を議題といたします。

正副委員長からは以上ですが、委員の皆様から何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、以上で本日の建設水道常任委員会を閉会いたします。

午後1時52分 散 会

建設水道常任委員長

梅 津 一 匡